



越前海岸の水仙群

4x5 210<sup>mm</sup> 上下カット(2:3)

## 生涯現役のころ

会長 鈴木 克彦

私事ながら、この言葉「生涯現役」をいつ聞いたのかは定かではありませんが、多分60代のころではないかと。当時はそれほど真剣には頭には入っていませんでしたが、ここ数年、寂しいことと言えば春が近づいてくる季節になると、「はてあと何回桜が見れるだろうか？」と頭によぎります。2018展の課題作品は『日本の桜』ですが、2月に行われた全倍作品の色味チェックでは、なかなか爽やかな雰囲気が出ていました。作品群全体が春爛漫の世界でしたから。「みんなよく行ってるなあ」との思いは、私だけではなかったようです。

日本大判寫眞家協会 会員のメンバーも大分年齢が増えてきており、最高齢は80代後半に

入っています。それでもたえず元気で、いざ撮影会となると率先して参加戴いております。これは年齢ではなく、本人の心の持ち様なんだと感じます。逆に年輪を重ねているだけに、自然界を見る熱視線さえ感じられます。私も時たま言うところの『気合いだー』ではないでしょうか。

これからは余り後ろばかり見ずに、たえず前向きな性格をつくらなければなりません。大判撮影は、機材にもよりますが大体が大仰です。4x5、5x7、8x10と、車無しではなかなか出にくいものです。声を掛け合って乗り合い結構。楽しくいきたいモノですね

ただし、車の運転は無理せず、気負わず安全運転第一ですよ。気張らずに行きましょう！

## いよいよ2018展の開幕です

運営委員長 田中 明

去る2月17日(土)の研究会に於いて、堀内カラー 末永様にプリント持参で来阪頂き、展示プリントの最終確認を行いました。研究会に参加戴いた会員のご協力のもと、全作品の最終確認を滞り無く終えることが出来ました。この場を借り、厚く御礼申し上げます。

この後は、3月13日(火)午後1時の神戸展開幕を待つばかりとなりました。例年、作品の搬入作業は「開幕日の前日」となっておりますが、神戸展に関しましては「当日の午前中」に作業を終える必要があります。また、展示作品の撤収作業も、最終日の午後3時から5時までの短時間に終える必用があります。ついては、展示会場の準備作業・撤収作業には、例年以上に多くの会員のご協力が必用となります。ついては、多くの会員諸氏に会場設営・運営・撤収へのご協力を戴きます様、宜しくお願い申し上げます。

神戸展の終了後、4月3日(火)より名古屋展が開幕を迎えます。名古屋展の搬入作業は前日の4月2日(月)午後に、搬出作業は最終日の8日(日)15:00から行います。名古屋展の会場準備・運営・搬出に付きましても、名古屋支部会員諸氏のご協力を戴きます様、宜しくお願い申し上げます。

展示作品につきましては、名古屋展終了後に飾付け担当のマルイ美術様より、順次、着払いにて発送致しますので、受領時に運賃のお支払いをお願い致します。なお、配送時に受け取り頂けずに返送となった場合には、再発送はせず作品は廃棄処分となりますので、各位が不在時の作品受取については十分ご注意下さい。

## 次回研究会日程について

研究会担当 垣内 晃

3月、4月は「日本大判写真展」開催の為、研究会はお休みとなります。

次回の研究会は5月19日(土)13:30から大阪写真会館 会議室で開催致します。

6月は定期総会のため研究会はお休みとなり、7月より平成30年度の研究会と2019展出展作品の審査を開始致します。

いよいよ春の撮影シーズンの到来です。7月の出展作品審査の開始に向け、力作を沢山撮り溜めて戴く様、お願い致します。

## 事務局から耳の痛い話を

### 『誰のための写真展なのか?』

事務局 松本憲治

2月号に同封致しました「写真展の会場当番の返信はがき」の返信率が非常に悪く、事務局より一言苦言を申し上げさせて戴きます。

写真展は、協会の年間事業の中でも最も重要な行事です。会員の皆様に、1年間の写真活動の成果として、選りすぐりの作品を出展頂いてますが、その展示会場の運営は会員各位のご協力無しでは実行不可能です。

今年の神戸展・名古屋展の当番予定表を同封させて戴きますが、ご覧戴の通り一部の会員(ほぼ実行委員の会員)のボランティア精神に頼った運営となっております。毎年、事務局より重ねて会場運営へのご協力をお願いしておりますが、この状況に改善が全く見られておりません。スムーズな会場運営を行うには、交代を含めて最低でも毎日8名程度を確保する必用があります。現在の様な会場運営の状況が今後も続くようであれば、他の写真クラブの写真展のように、出展会員に対して「会場当番の日を指定すべき」との意見も出ております。しかし、実行委員会としては、当協会は「会員の自主性に任せた運営が可能である」と信じております。

そこで、事務局として改めて会員諸氏に伺いたいと思います。

### 『誰のための写真展なのか?』



『月光風景を写す実験』 4×5で多重露光。

## 裏門へ廻ってみる

兵庫県神戸市在住 橋本 雅由

沢山の人を訪れる表門からではなく、ぐるぐると大廻りして裏門から覗いてみる。そこには一味違った面白い光景が展開しているかも知れません。

正面から眺めれば、まあ一応美しく、ちょっと感動する景色です。臍曲がりにはそんなの「在り来り」で「退屈」。

画家が絵を描くとき、在り来りの素材に時間をたっぷり掛けて、色、光、形、大きさなど想いを膨らませて感性の赴くままに誇張し、省略し、また補完し、まさにアートとなります。

それは繰り返し描いてきたデッサンで、ものの感じ方、見方を自身のもので「構成と描画」を習得し、与えられた空間をより良く魅力的に構成できるようになることが必須条件。描画が出来て構成が出来ないと作品のレベル向上はないと云うことです。

吾が写真 photo-graph 光画は、光が描く物理的、化学的現象を利用した描写です。「見

えたままシャッターボタンを押すだけ。後はあなた任せ」の描写を繰り返すところには、アオリなんて小技を使っても、絵画のように思うままに個性を押し出し、奔放に技を駆使して作品のレベルを向上させるなんて云うのは無理な話です。

絵画は絵画。写真は写真。別ジャンルなんですけど、一段格下に見られているのは残念なことです。

さて、風景を撮るとき、『推奨撮影ポイント』から撮影していると、

「何処かで見たことあるなあ」

「誰かも撮ってたね」

「撮ってくださあ〜い♪」

とばかりのポーズに惑わされて、「つい撮らされた」なんて事に…

poseは此方から取らせるもの。

また、映像というものは、要素を詰め込みすぎると結局何が言いたいのか…

シンプルなメッセージに絞って、「退屈さ」と無縁の「刺激的でおもしろい映像」を伝えなければ…

それじゃ…？

- ・推奨ポイントは敬遠する  
その横や後に意外なものが  
アングルを大胆に変化させる
- ・三脚の多い所は兎に角やめる
- ・手ぶらで歩き回る。  
思わぬ光景に遭遇するかも
- ・珍奇な絵を設計しよう!!
- ・北斎や広重流もいいですね  
大和民族の芸才は凄いです

普通じゃ駄目なんです

陳腐なんです 習作なんです

『わたし失敗するので!!』

はDr.Zのセリフ

ミスっても 実験だ ミスっても!!

いつか記念写真から抜け脱して、アートの域  
に近づくかも。

しかしやり過ぎるのも息が詰まるし、美しい風景を否定するものでもなく、いろいろ自問自答しています。



『吹きすさぶ雲を写す実験』 4×5で多重露光